

令和4年度 学校自己評価システムシート (さいたま市立 辻 小学校)

学校番号 024

目指す学校像	「愛情と信頼に支えられた、夢と希望をはぐくむ学校」 学べてよかった学校 地域とともにある学校・通わせてよかった学校 勤務してよかった学校
--------	---

重点目標	1 情報端末を活用した学びの自律、個別最適化と主体的・対話的で深い学びの充実 2 組織的な教育相談、生徒指導体制の充実による、安心・安全な学校の実現 3 コミュニティ・スクールとしての理念・方策の共有とスクール・コミュニティへの進化 4 実践的な教職員研修と一人ひとりの教職員が支え合い、高め合う、同僚性の高い職場の実現
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価	
年 度 目 標								実施日令和5年2月27日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	<p><現状> ○全国学力学習状況調査や市の学習状況調査では、国語、算数ともに、ここ数年平均レベルの結果を残している。 ○日頃の学習の様子から、落ち着いて学習に取り組む、しっかりと話を聴いたり、基本的な計算をしたりする力がついている児童が多い。</p> <p><課題> ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、算数の「変化と関係」「データの活用」について課題が見られる。 ○国語の学習に対する興味、関心が算数に比べると下降傾向にあり、正答率にも影響しており、主体的な学びの充実が課題である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学びの自律、個別最適化の充実に向けた、情報端末の活用と授業改善 ・特別の教科道徳の研究を中心とした、主体的、対話的で深い学びの充実 	<p>①情報端末を使った授業を、最低1日1回は行い、その効果を職員で共有する。 ②「よい授業のアンケート」を活用し、児童の実態に合った授業改善を行う。</p> <p>①道徳指導で、主体的で、対話的で深い学びに結びつく授業を展開する。 ②道徳指導の研究で培ったスキルを他の教科で活かす。</p>	<p>①年間を通して、情報端末を使った学習指導ができたか。 ②「よい授業のアンケート」の数値が2回目、3回目で向上したか。</p> <p>①各学年で、道徳の公開授業、研究授業を行い、主体的、対話的で深い学びの授業研究ができたか。 ②道徳指導の成果を生かし、他の教科で主体的、対話的で深い学びについて授業研究ができたか。</p>	<p>①各教科の特性に合わせて、ミライシードのオクリンクやムーブノートを効果的に活用し、児童同士や教師の評価に生かすことができた。 ②各回の「よい授業のアンケート」の結果を生かした授業改善を実施し、2回目、3日目でそれぞれ平均1ポイント向上できた。ポイントの上昇とともに、授業力向上に向けて具体的な取組ができた。</p> <p>①全校で検討した研究の視点と指導者の指導のもと、各学年で、道徳の公開・研究授業を実施し、児童の自ら表現し合う、深い学び合いができた。 ②道徳指導での成果を生かした、他教科での深い学び合いの授業研究が進行中である。</p>	B	<p>個別最適な学びの一つのツールとしての情報端末使用頻度が学級によってやや偏りがあったため、エバンジェリスト(ICT推進担当)を中心とした操作研修やICT支援員を効果的に活用した教育活動を企画・運営していく。</p> <p>児童の主体的、対話的な学びが道徳科研修の手立てをもとに発揮されてきているため、次年度も道徳教育の継続とともに他教科での児童の学びを広げていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・情報端末を使用した活動は、子どもたちにとっては、ハードルが高く感じないだけに、遊びと勉強の境は意識してほしい。 また、保護者への端末利用についての理解(啓蒙)を図れるような保護者も学べる場があるといい。 ・inputの学習とoutputの学習のバランスを考えた活動を今後も考えてほしい。 ・映像の力によって効果が大きい学年等使用法を上手に生かしてほしい。 ・道徳教育を今後も他の教科に生かす活動を続けてほしい。 	
2	<p><現状> ○児童の学校評価で「毎日、元気に登校している。」「いじめや仲間はざれなどせず友達と仲良くできている。」の肯定的回答が95%以上になっている。 ○昨年度、施設・設備に関わる事故は0だったが、老朽化が進んでいる。</p> <p><課題> ○自己肯定感の低下が目立つようになっており、生徒指導、教育相談、特別支援が連携しての適切なケース会議開催など、より組織的な取組が課題である。 ○児童自らが、安全に生活する意識を高められるようにする必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童一人ひとりの実態に応じた、支援や相談体制の整備 ・児童の安全意識の向上と、施設設備の点検、修繕の徹底、迅速化 	<p>①「心と生活のアンケート」を活かした、積極的な生徒指導、教育相談を行う。 ②生徒指導部、教育相談部、特別支援教育部、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを組織的に連携させ迅速、誠実に支援、相談ができるようにする。</p> <p>①「校内安全マップ」を児童自身で制作、アップデートし安全への意識を高める。 ②安全点検で見つかった修繕、補修箇所には1週間以内に対応する。</p>	<p>①「心と生活のアンケート」実施後、速やかに面談や生徒指導部等を行うことができた。 ②関係者が適切な場面で迅速に連携し、ケース会議等を開いて、事案に対応することができたか。</p> <p>①校内安全マップを作製、アップデートできたか。 ②安全点検で見つかった修繕、補修箇所には1週間以内に対応できたか。</p>	<p>①「心と生活のアンケート」実施後、速やかな面談を実施するとともに、重要項目に該当する児童には、その日面談、管理職への報告、場合によっては保護者との連携も確実に実施できた。 ②特別支援コーディネーターを中心に優先順位を付けて迅速にケース会議を開催し、適切な対応を検討し、全職員で共有して指導に当たることができた。</p> <p>①保健部を中心に校内の安全マップを更新し、全職員が共通行動し、児童の安全意識を高めている。 ②安全点検で見つかった修繕箇所は、用務に早急な対応を依頼したり、関係各所に迅速に連絡修繕依頼したりして、安心安全な教育環境を整備できた。</p>	B	<p>ここ数年コロナ禍ということも相まって、児童や保護者とも教育相談体制の充実が欠かせない現状であった。今年度は、校内体制が構築できたためさらに関係機関と綿密に連携し、安心・安全な学校づくりを進めていく。</p> <p>学校施設・設備の老朽化が進んでいるため、次年度計画されている改修工事、修繕工事や設備等の交換とともに、学校予算による環境整備を優先順位をつけ執行していく。また、関係機関への連絡・対応を依頼する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果によるその日中の対応が素晴らしい。今後も先生と子どもたちが意見を交換できる場を生かしてほしい。 ・ケース会議が進められていて継続してほしい。 ・先生方だけでなく、専門家や関係機関にもっと入ってもらっていいと思います。 ・安全マップの取り組みは素晴らしい。高学年がそれを使って低学年に教えられるといい。 ・用務員さんと連携した廊下タイルの補修や校庭の環境整備がよく進められていてよい。 	
3	<p><現状> ○昨年度、辻小学校運営協議会を立ち上げ、目指す児童像について熟議をし、地域、家庭、学校が連携しながら子どもに「かかわりあい」、心を育てていくことを共有した。</p> <p><課題> ○辻地区では既にスクール・コミュニティと言えるような取組が積み重ねられてきており、昨年度の学校運営協議会で共有した、子どもの健全育成のための「かかわりあい」を時代に合わせ、どの様に実現していくかが課題である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す児童像を実現し、「かかわりあい」の在り方を共有するための、ICTも活用した情報発信 ・主体的児童を育てるための、コミュニティ・スクールとしての具体策の策定 	<p>①学校Webページや学校安心メールで学校行事や児童の様子を紹介する。 ②動画配信などを活用し、学校の教育活動や児童の成長への関心を高める。</p> <p>①小・中・高・地域・家庭で連携した、あいさつ運動を実施する。 ②小・中・高・地域連携事業を年3回以上実施する。</p>	<p>①学校Webページ(平均月3回以上)や学校安心メール(行事ごと)で学校行事や児童の様子を紹介することができたか。 ②動画配信などを活用し、学校の教育活動や児童の成長への関心を高めることができたか。</p> <p>①小・中・高・地域・家庭で連携した、あいさつ運動を実施できたか。 ②小・中・高・地域連携事業を年3回以上実施できたか。</p>	<p>①Withコロナを念頭にこれまでに近い学校行事を開催し、その様子を学校ホームページ等で毎回紹介することができた。学校評価では行事開催への肯定的な意見が10ポイント近く上昇した。 ②参観やコンサート風景等、限定による動画配信などを活用して、多くの保護者が児童の成長と教育活動への関心を高めることができた。</p> <p>①小中連携を中心に地域を巻き込んだあいさつ運動が年間3回実施できた。 ②育成会の協力も得ながら、夏休みのサマースクール等、小・中・高・地域連携事業を3回以上実施できた。</p>	A	<p>コロナ禍のあるなしに関わらず、学校行事に参加できない方へも学校を身近に感じてもらう学校からの情報発信の仕方を工夫する。また、CSとして地域・家庭ができることも検討していく。</p> <p>本校の良き伝統となっている地域のとのつながりをWithコロナに沿った地域との協働した形として運営し、児童の「かかわりあい」の心を育てていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・Webページでの配信は、保護者や地域への情報発信となってきて素晴らしい。継続してほしい。 ・地域との連携した行事で、今後子どもたちを見守り、育てていきたい。地域と協力したラジ体操の実施により地域の高齢者との繋がりもできるかもしれない。 ・地域に愛着が持てる辻小の強みを生かした地域との連携事業をマイナーチェンジする必要がある。 	
4	<p><現状> ○ICTの効果的な活用を発展、深化させるため、情報端末やアプリ等の活用法について、エバンジェリストを中心に研修を重ねてきた。 ○中学年以上の教科担任制で国語、算数、体育にも取り組むことにより、その利点をさらに生かすことができています。</p> <p><課題> ○逐次アップデートされるICTのアビリティに適応できるよう、組織的に取り組む必要がある。 ○教科担任制等で高まった同僚性を活かし、より働きやすい職場にしていけることが課題である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの更なる活用による、授業や事務作業の効率化 ・同僚性を高めた、働きやすい職場の実現 	<p>①無線LANや校務用端末を活用した授業や事務作業で業務の負担を減らす。 ②管理職が率先して職員室の同僚性を高め、支え合い、高め合う職員集団にする。</p> <p>①職員アンケートで、業務の効率化に対する肯定的なアンケート70%以上。 ②職員アンケートで、働きやすい職場に対する肯定的なアンケート70%以上</p>	<p>①今年度新たに設けた業務効率化の学校評価アンケートでは、肯定的な回答が80%から95%であり、効率化への意識と実際の業務負担の軽減につながってきている。 ②学校評価アンケート「他の先生と協力して気持ちよく働くことができています」の肯定的な回答は100%であったが、一部教科担任制や校務分掌による仕事量の偏りを心配する声も上がっている。</p>	B	<p>ICTを活用した資料の電子化に移行してきている。そのため、毎年蓄積されたデータの再考により、各業務内容の軽減にもつながってきている。データの保存場所や保存方法を工夫するとともに、古くなったデータの削除整理など働きやすい職場環境を構築する。 ・本校のスタイルとである教科担任制をさらに成熟させ、同僚性の高い職員集団にする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・同僚性は、教科担任制で高まるものだけではなく、様々な協働活動によって得られているものということが確認できました。 ・「他の先生と協力して気持ちよく働けている」の肯定的なアンケート回答が100%は素晴らしいので今後も団結してか教育活動を進めてほしい。 ・辻小のこれまでの教科担任制を今後も生かしてほしい。 		